

日本模擬国連 (JMUN)

広報誌

2022



02.

代表挨拶

03-04.

年間活動報告(JMUN)

05.

年間活動報告(全国大会)

06.

年間活動報告(全米団)

07-09.

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

代表挨拶

本広報誌をご覧の皆様こんにちは、2022年度日本模擬国連(以下、JMUN)代表を務めておりました、駒場研究会老メン(執筆時)の田部井淳志です。

新型コロナウイルス感染症の流行から早3年、模擬国連という活動も様々な影響を受けました。しかしその中でもオンライン模擬国連のノウハウが形成されたり、最近では対面での会議が解禁されるようになったりと、JMUN会員の皆様の努力と、支えてくださる皆様のおかげで模擬国連という活動はその火をたやす事なく、むしろ明るさを増しながら続いているのだなと実感します。

本年度JMUN Officeではいくつか新しい試みを始めており、この広報誌もその一つとなっております。JMUN会員同士がお互いの活動を知るとともに、JMUNを支えてくださる皆様にJMUNの活動についてお伝えする場にできれば幸いです。

未だ新型コロナウイルス感染症の脅威は残っている中ではありますが、今後も模擬国連という活動が続いていくことを一人の「もぎこっかー」として願って止みませんし、そのために力を尽くす所存です。今後とも模擬国連並びにJMUNをどうぞよろしくお願いいたします。

(2022年度JMUN代表・田部井淳志)

年間活動報告(JMUN Office)

目安箱の設置

JMUN会員の疑問解消や、要望を反映したJMUN Office運営のため、目安箱を設置しました。寄せられた意見はJMUN Office内で検討し、回答は月1回を目安として行いました。以前までは目安箱の存在の周知がなされておらず、返答も不定期でしたが、本年度は定期的な返答と広報により、効果的な目安箱運営を行うことができました。なお、寄せられた意見・要望のうち主要なものに関しては別添文書にまとめておりますのでご確認ください。

寄付金制度

今年度は前年度に引き続き、個人寄付金制度を設けました。模擬国連活動のさらなる発展のため、寄付金はJMUN会員の会費削減、全国大会等JMUN主催事業への助成、JMUN Officeの活動支援として活用致します。

オープンチャットの運営

以前より運用されていた、LINEのオープンチャット「大学模擬国連(JMUN)」での情報発信を強化し、より多くのJMUN会員が、情報にアクセスしやすい環境づくりに尽力しました。しかし、全会員数のうち、約180名の登録となっており、オープンチャットそのものの認知度の低さが、課題として残っております。

会議日程及び議題の共有

7つの研究会と3つの支部の全てにまたがるというJMUNの特徴を活用し、各研究会・支部の会議日程をあらかじめ共有するプラットフォームを作成することでより多くのJMUN会員が他研究会・他支部の会議に参加できる土壌を整えました。また、希望があった方には会議の議題設定段階で議題の重複を避けるシステムを導入しました。

会計フローの変更

以前は、東西事務局とJMUN Officeがそれぞれ会員の皆様から集めていたお金を、JMUN Officeで一括で管理して集金し、東西事務局には助成金という形でその一部を移すという制度に変更いたしました。これにより、会員の皆様が振り込む回数が1回になり手間を減らすことができ、また、研究会における人数の変動に対しても東西研究会全体としての変化量を減らすことにより財源の過度な変化というリスクを削減することができました。

通活等コンテンツ共有

他の研究会・支部で普段何をしているのか知りたいという声を受け、希望者については通活等のコンテンツ共有するプラットフォームの作成を進めています。

年間活動報告(JMUN Office)

MUNBISNET再始動

従来から存在する、BGなどを集約するデータベースであるMUNBISNETについて、一層の改善を図るため、しばらく滞っていたデータの収集及び機能の追加を進めております。具体的には、BGだけではなく設定会議の史実の決議番号や議事録などを合わせて参照できるような仕組みを整えていく予定です。

講師派遣事業

横浜翠陵高等学校「気候変動枠組条約第21回締約国会議」(4月9日)

宇都宮文星高校(高校生RYLAセミナー)「気候変動枠組条約第26回締約国会議」(6月12日)

学習院女子大学「模擬国連講義、国連カフェ」(6月15日)

昭和女子大学付属昭和中学・高等学校「気候変動枠組条約第21回締約国会議」(7月23日)

宇都宮コンサーレ(社会人向けRYLAセミナー)「安保理改革」(11月12日)

上記の事業を完遂致しました。各事業依頼者様方からも高評価を頂き来年度もまたご依頼して下さるといってお声を頂きました。

「大学模擬国連を事業を通じて広める」という活動を来期にもつなげる活動が出来たかと存じます。

JMUN規約の改訂

2016年に規定されたJMUN規約ですが、その後6年が経ち、現状に合っていないことなどが増えてきたことを受け、いくつかの改訂を行いました。詳しくはJMUN HPなどをご参照いただければと思いますが、より現在の状況にあった規約にすることができたかと思えます。

新歓・運営ノウハウの共有

ウィズコロナの形で対面でのものが増えてきたことを鑑みて、コロナ禍以前に運営をされていた先輩方を中心に新歓・運営のノウハウを伺って、その内容を現役のJMUN会員に共有しました。20を超えるご回答をいただき、多くの会員にとって有意義なアドバイスをいただきました。ご協力いただいた先輩方にこの場を借りてお礼申し上げます。

年間活動報告(全国大会)

第22回模擬国連会議関西大会(2022年8月23日～25日)

議題:

「国家管轄権外の海洋生物多様性の保存と持続的利用」
「平和のための結集」
「コンヴォ情勢」
「デジタル時代におけるプライバシーの権利」
「国有財産、公文書及び債務についての国家承継に関するウィーン条約についての国際連合全権会議」
「先住民族の権利に関する国連宣言」

コメント:

大会事務局としてを振り返ると、「見直す」が多かったように思います。世間の状況や3年ぶりの対面開催のために、例年のシステムなどを悉く見直す必要がありました。その分、事務局と全ての参加者で共に新たに作り上げることができた大会になったように思います。また、いつもとは違う視点から模擬国連に関われる運営事務局員としての初めに考えたことは、一参加者としての模擬国連経験を見直すことでした。事務局としての力は微々たるものですが、少しでも参加者の皆様の今後の活躍、また日本模擬国連の発展に寄与できていましたら幸いです。今後ともご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務総長・春名鞠慧)

第28回九州サマー・セッション(2022年9月12日～15日)

議題:

「2005年世界サミット成果文書の人間の安全保障に関する第143項のフォローアップ」

コメント:

この1年間開催地等様々な面を事務局内で綿密な議論を行った結果、大会期間中の不測の事態を極力減らすことが出来ました。数年ぶりの対面開催という状況の中、皆様のご協力により、会議では大激論を、そして企画ではリラックスをという変わらない「九州サマーセッションらしさ」を味わっていただける大会となったと感じます。皆々様誠にありがとうございました。

(事務総長・西澤真由)

第28回模擬国連会議北陸大会(2022年10月29日～30日)

議題:

「キューバ危機」

コメント:

規模を縮小することになり悔しい思いをした今大会ですが、参加していただいたデリの皆さんの表情は明るくて安堵しました。皆様のご協力がなければ成り立ちませんでした。改めて感謝申し上げます。

(事務局長・長谷部維真)

第34回模擬国連会議全日本大会(2022年12月27日～30日)

議題:

「コンゴ動乱における国際連合の活動」
「WTO改革」
「国際テロリズムに関する包括的条約」
「国際連合憲章に従った諸国間の友好関係及び協力についての国際法の原則に関する宣言」
「国連公海漁業実施協定」
「国際機構に関する連合国会議」

コメント:

3年ぶりのメトロポリタン池袋での開催となり多くの方にご参加いただきました。大会事務局としては参加費や会場の決定について多く課題が残る1年となり、例年のシステムの見直しを迫られました。2023年にも全日本大会が控えております。満足度の高い大会を作るため大会事務局として精進する所存です。今後ともご理解とご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

(事務総長・直江薫乃)

年間活動報告(全米団)

模擬国連会議全米大会第39代日本代表団派遣事業

2022年

英語会議(8月15～16日)

選考プロセス(9月1日～10月31日)

第40代団員発表(10月31日)

第1回団員育成プログラム(11月5～6日)

第2回団員育成プログラム(12月17～18日)

2023年(予定)

第3回団員育成プログラム(1月14～15日)

第4回団員育成プログラム(2月11日)

政策発表会(2月12日)

第5回団員育成プログラム(2月18～19日)

第6回団員育成プログラム(3月9～10日)

渡米プログラム(3月21日～4月8日)

全米大会(4月2～6日)

コメント:

模擬国連会議全米大会日本代表団派遣事業第40代運営局(略称:全米団)は、8月に行われた英語会議を含む次期団員募集期間、9月10月に行われた選考プロセスを経て、11月から第40代団員を無事に迎えることができました。そして11月からは来年4月に行われる全米大会に向けて団員育成プログラムを中心に全米大会で活躍するために必要な能力を養むための様々なプログラムを実施している最中です。運営代は来年6月まで活動し、来年の2月には団員の政策立案の成果を披露する政策発表会を実施し、3月の下旬から4月上旬まで渡米し、全米大会に参加する予定です。

(団長・渡辺由璃子)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

関東事務局

五研追いコン企画(2月13日)
春の関東総会(3月26日)
五研春の一日企画「コロナ対応をめぐる街の活動規制について」(5月1日/Zoom)
五研新歓企画「あおぞらピクニック」(6月4日/代々木公園)
五研観光&花火企画(8月6日/浅草&堀切水辺公園)
五研九月企画(9月4日/上野動物園)
五研新メン会議「紛争ダイヤモンドに関する問題/アンゴラ問題/テロリズムの防止に関する欧州評議会条約追加議定書(3議場)」(10月2日/大田区産業プラザ)
五研OBOG企画(11月5日/Mace 千駄ヶ谷)
冬の関東総会(12月10日/Zoom)

コメント:

今年には2019以来の対面企画や会議を行い、暗中模索の一年でした。来年以降は企画や会議のクオリティを上げることなどに注力できるよう、今年培った土台を引き継げればと考えています。

(事務局長・岩間文香)

四ツ谷研究会

強化会議「武力紛争下における子ども兵士への対策」(3月12~13日)
春の1日体験会議「シリア情勢」(4月16~17日)
新歓会議「2010年核不拡散条約運用検討会議」(5月7~8日)
前期会議「国際連合における中国代表権問題」(6月25日, 7月2~3日)
葉月会議「『パリ協定』の採択」(8月11日)
後期会議 11月19日, 11月26~27日 スペイン領サハラの問題

コメント:

今年一年間、同期をはじめとして後輩や先輩方、OBOGの皆様など様々な方々に支えられた毎日でした。新たに60名の41期を迎え入れ、会議や企画など年間を通して活発に活動してまいりました。来年は41期が運営代となり四ツ谷研究会を引っ張っていってくれることと思います。今後とも四ツ谷研究会をどうぞよろしくお願いいたします。一年間本当にありがとうございました。

(会長・福嶋南美)

国立研究会

強化会議「宇宙空間の諸問題に関するニューヨーク会合」(3月14~15日)
春一会議「コロナウイルスのパンデミックに対する包括的かつ協調的な対応」(4月16~17日)
新歓会議「武力紛争下の子ども~子ども兵士の問題~」(5月14~15日)
前期会議「第三次海洋法会議第三会期ジュネーブ会議」(7月9~10日)
秋会議「ヒトクローン個体産生禁止条約」(10月15~16日)
後期会議「核不拡散条約延長再検討会議」(12月3~4日)

コメント:

国立研究会は多岐に渡る時代の多種多様な議題に今年1年間取り組みました。国際基督教大学、一橋大学、東京外国語大学等多様な大学から人が集まる研究会だからこそ、どの研究会よりもバラエティに富んだ活動をすることができました。会議に限らず勉強会も積極的に行い、活動歴問わず学びの多い一年となりました。

(会長・田中萌絵)

駒場研究会

強化会議「コンゴ動乱」(3月19~20日)
春の1日会議「安保理改革」(4月24日)
新歓会議「対人地雷規制」(5月21~22日)
前期会議「第3次印パ戦争」(6月25~26日)
駒場新メン会議「アパルトヘイト問題」(10月22~23日)
後期会議「マスメディア宣言」(11月26~27日)

コメント:

本年は以上のように研究会として会議を主催しました。会議運営者、会議参加者が共に会議を有意義な経験として吸収したものと存じます。駒場研究会という名前ではありますがいい意味でも悪い意味でも常に変化していると言えるでしょう。2023年からまた新たな運営代のもとで駒場研究会がスタートし、知的競技としての模擬国連の発展を担うと考えております。皆様におかれましては有形無形を問わず模擬国連コミュニティへの温かいご支援、ご理解を頂戴したく存じます。

(会長・小林恒司)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

早稲田研究会

強化会議「国際人権規約B規約(自由権規約)の起草」(2月19～20日)
春の一日体験会議「SDGs文言の作成」(4月10日、17日)
新歓会議「小型武器の取引規制」(5月14～15日)
前期会議「パレスチナの将来の統治形態」(6月25～26日)
秋会議「キューバ危機」(9月17～18日)
後期会議「国際刑事裁判所に関するローマ規程再検討会議」(11月19～20日)

コメント:

早稲田大学の方針やJMUNの規約に則りつつ、今年の会議は3年ぶりに全て対面で開催することが出来ました。国際情勢に対する関心の高まりから例年より多くの新入生が入会し、研究会活動がより活発化する1年となりました。

(会長・六代深尋)

日吉研究会

強化会議「2005年国連首脳会合成果文書R2P言及箇所」(3月3～5日)
春の一日会議「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議」(4月16～17日)
ミニ会議「オリンピック開催地決定」(4月22日)
新歓会議「安保理改革」(5月14～15日)
前期会議「国際連合難民高等弁務官事務所報告書 難民・帰還民・避難民に関する問題と人道的問題」(7月9～10日)
秋会議「南ローデシア情勢」(9月24～25日)
後期会議「自律型致死兵器システム」(11月26～27日)

コメント:

この1年間我々日吉研究会27期運営代を支えてくださった皆様、誠にありがとうございました。時が経つのも早いもので、27期運営代も代替わりの時期に差し掛かってきました。我々27期はチャレンジ精神旺盛で活発で、模擬国連のみならず他の部活やサークルにも所属している会員や留学に行く会員も多く、多様なコミット形態が特徴的な代でした。新年、右も左もわからない中運営をはじめ、新型コロナウイルスの影響を含め様々な困難もありましたが、新メン(模擬国連1年目)と旧メン(模擬国連2年目)で100名を超える大所帯の代に27期会長を務めさせていただき大変光栄です。そして何より、この1年間の運営は一重に副会長や各役職統括、大学代表や27期の同期、そして先輩や後輩、OBOGの皆様の支えあってこそ走り抜くことができました。

日吉研究会を支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。今後とも末長く、日吉研究会をよろしく願いいたします。

(会長・喜友名理沙)

関西事務局

春の関西総会(2月21日)
プロシージャークラス講習会、紫陽花フェスタ(6月4日)
冬の関西総会(11月20日)

コメント:

関西模擬国連界隈を盛り上げることを大きな目標であり、そのやりがいと難しさを同時に感じた一年となりました。道半ばに終わった改革も含め、引き継いでくれた後輩たちがこの目標に近づいてくれると確信しています。

(事務局長・代田快人)

京都研究会

春会議「クラスター爆弾禁止条約」(3月1～3日)
前期会議「死刑執行モラトリアム」(6月25～26日)
新メン会議「クリミア危機2014」(10月8～9日)
後期会議「保護する責任」(11月26～27日)

コメント:

コロナ禍と向き合いながら、対面活動を少しずつ再開していった1年でした。4つの研究会会議は、参加者がそれぞれの知識や技を競い高め合う、大変充実したものとなりました。また、週末などに実施した9つの企画を通して、会員間の親睦を深めることができました。そのほか運営の透明性向上などにも取り組み、一定の成果をあげることができました。

(会長・浅岡幾一郎)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

神戸研究会

春の一日体験会議「安全保障理事会改革」(4月18日)
オリエンテーション会議「NPT再検討会議」(5月14～15日)
前期会議「中国代表権問題」(6月19,25～26日)
夏の一日体験会議「安全保障理事会改革」(7月17日)
秋会議「発展の権利宣言」(9月24～25日)
後期会議「第3次中東戦争」(11月12,19～20日)

コメント:

3月に我々の運営代管轄の冬会議が控えていますが、この1年間では6つの会議を行いました。総括すると、数年ぶりにオール対面で活動を行い、非常に活発かつレベルの高いものになったと思います。新メンも想定より多く入ってもらえ、来年からも神戸研が活発に活動する基盤を作れたかなと思います。

(会長・杉田悠水)

九州支部

Golden UN Camp「安全保障理事会の議会議席拡大と衡平配分および関連事項」(5月28～29日)
前期会議「コンヴォイ情勢」(10月1～2日)
後期会議「国際人権規約 共通第一条自決権」(11月26～27日)

コメント:

今年は感染症対策を十分に行った上で全ての会議を対面(ハイブリッド)で行うことができ、やっと支部員が対面の会議を経験できるようになった年かと思います。特に、九州支部(2大学が所属)は両大学が地理的に離れており、コロナにより2大学間の対面での交流が減っていたため、会議を通して対面での交流が促進されたことは支部にとって非常に良かったと思っています。昨年度の後期会議から対面開催となり、またコロナ前よりも考慮・対応すべきことが増えたことで、まだ会議運営面での課題はありますが、来年度さらに対面開催の基盤を築き直していければと思います。

(支部長・高畑心温)

名古屋支部

新歓会議「世界文化遺産登録審議会(第39回世界遺産委員会)」(5月22日)
前期会議「国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議」(8月21日)

コメント:

人数が少ない中でしたが、新メンも無事に入ってくれて引き継ぐことができました。今年は会議以外に親睦会を開くこともでき、支部内の交流が昨年以上にできたことが成果だと思っています。

(支部長・光田真澄)

北陸支部

後期会議「気候変動枠組条約第3回締約国会議」(3月19～20日)
新歓会議「第3回CTBT発効促進会議」(5月14日)
前期会議「ウクライナ問題」(7月2～3日)

コメント:

年3回とかなり少ない会議でした。その中でも、人によって差はありますが、模擬の楽しさに目覚め、劇的な成長を遂げた新メンが複数いたことを嬉しく思っています。

(支部長・長谷部維真)

個人協賛金寄付者のご芳名

中西公輝 様 大澤理絵 様

皆様の温かいご支援にJMUN会員一同深く御礼申し上げます。
これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

編集後記

多くの方々のご協力をいただき、「日本模擬国連 広報誌 2022」を無事に発行することができました。新型コロナウイルス感染拡大のなかで、様々な制限が強いられることもありました。対面開催の復活や、例年の活動が徐々に戻りつつあり、大変喜ばしいことだと感じます。依然として厳しい状況ではありますが、皆さまお体に気を付けてお過ごしください。
今号の発行にあたり、寄稿して下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

連絡先

日本模擬国連 代表部
代表

president@jmun.org

渉外(協賛金に関するお問い合わせ)

pub@jmun.org

事業(講師派遣事業に関するお問い合わせ)

pr@jmun.org

ホームページ・SNS

ホームページ: <http://jmun.org/>

Twitter: https://twitter.com/jmun_official

Facebook: <https://m.facebook.com/profile.php?v=feed&id=15870005419623>